島嶼学概論I 硫黄島実習レポート

3813800072 沖園修平

鹿児島市南埠頭を出港して約3時間半。わずかに噴煙をあげる薩摩硫黄岳が見えてきた。港は茶色の海水で満たされている。スクリューで巻き上げる海水も茶色であった。港の横には、数十メートルの絶壁がある。港では、ジャンベ演奏で迎えていただき、講義で聞いていた硫黄島らしさが伝わってきた。

硫黄島ジオパークでは、硫黄島の自然の素晴らしさを学んだ。はじめに見た茶色の海水は、鉄分を多く含んだ海水が海底から湧き出た酸性の海水と鉄酸化細菌の作用により、鉄が析出するため茶色の海水となる。析出後は、沈殿物となり海底へと沈降して堆積する。このような環境は非常にめずらしく、原始の地球に近いものだと考えられている。海底には、多くの鉄の堆積物が存在し、定期的な掘り下げが必要となっている。しかし、鉄が析出した海水自体の人間に対する影響はほとんどなく、硫黄島の観光ポイントの一つとなっている。また、硫黄島自体は、鬼界カルデラの外輪山であり港の横の絶壁が外輪山である証拠にもなっている。鬼界カルデラの最深部は、200m程度あり魚種に富んだ海域でもある。また、宝石サンゴの生息地でもあり、水産業としてなりったっている。魚介物の漁獲は出荷する程度の漁業を行っておらず、これは、離島であるがため交通の便が悪く漁獲しても出荷までに時間がかかり経営として成り立たないためであった。

主な島の農林業では、黒毛和牛の生産が主であり年間の販売額は1億円となっている。水産業が成り立たっていないことには驚いた。特産品としては、大名竹があるが、フェリーによる輸送に日数がかかるため、水煮での出荷がおもである。水産物の利用は、観光客に対する釣りによるものであり、湾付近での魚影も濃くシマアジやイシダイ・青物の釣果があり、これを釣りにくる観光客もいるとのことであった。実際に学生が、ハタ・タチウオ・メアジを釣り上げていたことから、濃い魚影があると思われ、観光資源としての利用価値があると思った。遊漁船の有無を聞きそびれたが、遊漁船と釣り場の開拓を行い釣りレジャーとしての最高の場所になると思った。東温泉のpHはかなり低く強酸性であるとのこと。天然掛け流しかつ海の横というロケーションは最高であり、島に来てよかったと感じられる場所であった。東温泉とは真逆に位置する温泉は、泉源が違うため、東温泉とは全く異なった泉質を持つとのことであった。小さい島であるのに泉質が異なることも硫黄島の魅力のひとつであると思った。小学校は、離島特有の少人数であり、黒潮留学を行い県内外からの児童の受け付けを行っているとのこと。島の教育としては、大いに学び経験をしいつかあ必ず島に戻ってくるような環境や教育に励んでいるとのこと。

懇談会にて住民の方々とたくさん語り合うことができ、本実習で最も学ぶこと感じること考えることが多かった時間であった。離島のイメージとしては、排他的思考が根強いと思っていましが、ジャンベ留学や学習施設の開設など島外からの人々を受け入れる施設も整っており排他的思考はあまりないようにも感じられました。しかし、島民のネットワークは非常に狭いものであり、出来事はすぐに広まるとの話も聞きました。そして、島の人々は呑み語り合うのが好きだと感じました。こういった呑みニケーションはとても大事だと思います。飲酒に対する社会の目は非常に厳しいですが、呑み語り合うことで今日を改め明日からのパワーへ変えれることができると思います。呑まないことが偉いのではなく、

呑み語り合いこれからの自分を設計することが大事であり、そういった社会にこれから向かうような環境を作りたいとも思いました。

本実習を通して、多くの人と出会い学ぶことができました。硫黄島のことはもちろんのこと、自己紹介で人を惹きつける様な話し方・人の話をよく聞き認めることの大事さ・やりたいことを追求楽しさと難しさ・教育がどれほど大事かそして知識だけではうまくいかないこと・・・・校長からの話にあった「渡りチョウ」の話は、とても印象的でした。島に限らず、どの地域であっても生まれた場所に帰りそして、地元のために貢献すること。これは、僕も感じていたことでした。そして、思うだけでは叶うことはありません。思った次は行動です。これから、大学を卒業し就職、結婚、子育て、、、様々なことがあると思います。いつかかならず地元に戻り、地元を盛り上げるため貢献・活躍しようと感じた硫黄島実習でした。

最後に、硫黄島でお世話になった皆様、ありがとうございました。